

■児童・生徒の学力の状況

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果から国語科では、知識技能に積み残しがあることが分かった。特に「言語文化に関する事項」の理解が低いことが分かった。算数科では、知識技能、思考・判断・表現に特段有意差はなく、都の平均より8ポイント低い。「変化と関係」は正答率が高く、都の平均を上回っている。理科では、思考・判断・表現が苦手であることが分かった。特に学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解していないことが分かった。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 児童が課題を自分事の課題として捉えることができていない。
- 解決するための見通しを立てることに苦手意識をもつ児童が多く、自分の考えを発想する手立てが少ない。
- 課題の解決のため友達同士が交流し、考えを高め合う場面の工夫が必要である。
- 本時のめあての提示と振り返りをしっかり行い、習得した知識を概念的に捉えさせる手立てが少ない。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 問題解決型・探究型の学習活動を通し、児童が主体的に学習に取り組めるよう授業改善を進める。児童が知識・技能を習得し、習得した知識を活用して考える力、表現し伝える力として育むために、「対話的な学び」に重視を置く。
- 友達同士の協働、教師やゲストティーチャーとの対話等から自己の考えを広げ深める。
- 「板橋区授業スタンダード」を徹底するとともに、児童が学び方を自己選択、自己決定、自己調整（self-select）する場面を取り入れた「板橋区授業スタンダードS」を推進する。
- 少人数学級の利点を生かし、専科教員、非常勤教員、学力向上専門員を活用した個別指導、グループ指導を工夫するとともに、寄宿舎と連携した学習習慣の定着により、児童に基礎的・基本的な学力の定着等の育成を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダード、 板橋区授業スタンダードSの実践	視点2 読み解く力の育成	視点3 伝え合う場面の設定
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。 ○学習方法を選択し、自己調整しながら主体的に学習できる授業作りをし、学び方を身に付けさせる。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面を設定する。INPUT→THINK→OUTPUTを授業の中に設定し、特に子どもが主体的にOUTPUTする場を大事にする。	○自分の考えや思いを相手に伝えるために、話す、書く、描く、顔の表情、体の動きなどを使い、表現させる。相手を意識し、わかりやすく説明したり、相手の考えを受け入れたりすることで、理解を促す。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	自ら学びに向かう仕組みづくり	ICT環境の適切な活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアの中で情報交換を行ないながら、環境教育や健康教育を推進していく。 ○「読み解く力」の観点を踏まえた校内研究を進め、年間6回の研究授業を行う。 ○地域の特色を生かしたキャリア教育を推進し、高学年を中心に、農園や総合病院、サッカークラブや水族館等で職業体験を行う。	○自分の習熟度に合った問題集を帯時間や自習時間に取り組み、苦手克服や得意を伸ばす。取り組んだ量で表彰を行い、児童の意欲を高める。（マイスタ） ○ノート指導を徹底し、書く力やまとめる力を伸ばす。ノートを見れば、1時間内の学習の流れが把握でき、振り返りに生かせるようにする。（ノート賞）	○児童からアンケートをとる際、Web回答アプリを活用し、グラフで結果を示し、学習に生かすようにする。 ○既習事項を生かして調べたことをまとめる際には、プレゼンテーションソフトを活用し、発表できるようにする。 ○話し合いや学習の中での多様な考えを出す際、共有ソフトを活用し、意見を比較したり、まとめたりする。